

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第1四半期連結会計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年5月31日) (枚)	前年同四半期比(%)
三重県	176,585	101.7
大阪府	52,813	102.8
京都府	58,319	104.3
山梨県	31,978	104.9
神奈川県	30,609	103.2
その他	95,702	114.9
合計	446,006	105.1

#### (2) 販売実績

当第1四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年5月31日) (千円)	前年同四半期比(%)	
調剤薬局事業	薬剤料	3,505,146	106.9
	技術料等	957,478	106.5
小計	4,462,624	106.8	
ヘルスケア事業	203,932	152.9	
医薬品卸事業	168,706	102.2	
不動産事業	19,035	101.8	
合計	4,854,298	108.0	

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当第1四半期連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第1四半期連結会計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年5月31日) (千円)	前年同四半期比(%)	当第1四半期 連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	1,569,694	102.7	31
大阪府	733,459	107.7	9
京都府	616,896	107.9	8
山梨県	340,759	104.1	1
神奈川県	274,865	107.9	3
その他	926,949	113.8	22
合計	4,462,624	106.8	74

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第1四半期連結会計期間(平成23年3月1日～平成23年5月31日)におけるわが国経済は、企業業績に改善の兆しが見られていたものの、甚大な被害をもたらした東日本大震災により、サプライチェーンの障害など供給面の制約が続き、厳しさを増す雇用環境に加え、個人消費の低迷や設備投資の落ち込みなど、景気の先行きに不透明さが増す中で推移いたしました。

このような状況の中で、当社の主力とする調剤薬局事業におきましては、安全性を最優先し患者様に選ばれる店舗運営を推進するとともに事業規模の拡大に向け取り組んでまいりました。ヘルスケア事業におきましては、介護付有料老人ホームを今後の成長エンジンと位置づけし、3年間で10施設の開設を目標として、安定的な成長に向けて取り組んでまいりました。また、医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の使用促進が図られている状況下、積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高4,854百万円(前年同期比8.0%増)、営業利益336百万円(前年同期比43.5%増)、経常利益319百万円(前年同期比45.8%増)、四半期純利益169百万円(前年同期比24.2%増)と増収増益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、前期に出店した店舗の売上増加に加え、既存店において処方箋応需枚数、薬剤料、技術料が前年同期を上回ることができたことから、売上高は4,462百万円(前年同期比6.8%増)、営業利益405百万円(前年同期比36.1%増)と増収増益となりました。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、既存施設3施設の入居率が高く維持できたことに加え、前期に開設した介護付有料老人ホーム2施設も計画どおり進捗したことから、売上高203百万円(前年同期比52.9%増)となりました。営業利益は新規施設への費用を計上したため11百万円(前年同期比42.0%減)となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の使用促進が図られている状況を好機と捉え、営業活動を強化し販売数量を伸ばすことで、売上高168百万円(前年同期比2.2%増)、営業利益15百万円(前年同期比38.4%増)となりました。(内部売上高を含む売上高は239百万円となり前年同期比7.9%増)

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、安定した賃料収入により売上高19百万円(前年同期比1.8%増)、営業利益10百万円(前年同期比0.2%減)となりました。

(注) 当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。これにより事業区分へ与える影響はないため、前年同期比較を行っております。

### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は13,142百万円となり、前連結会計年度末と比較し518百万円増加いたしました。

流動資産の合計は5,294百万円となり、前連結会計年度末と比較して104百万円増加いたしました。これは主に、売掛金の増加128百万円によるものです。

固定資産の合計は7,847百万円となり、前連結会計年度末と比較して414百万円増加いたしました。これは主に、有形固定資産の増加185百万円、投資有価証券の増加263百万円によるものです。

負債総額は9,367百万円となり、前連結会計年度末と比較して452百万円増加いたしました。これは主に買掛金の増加302百万円、賞与引当金の増加98百万円によるものです。

純資産は3,774百万円となり、前連結会計年度末と比較して65百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益169百万円、配当金の支払額76百万円によるものです。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は2,182百万円となり、前連結会計年度末と比較して143百万円減少いたしました。

当第1四半期連結会計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、368百万円(前年同期は285百万円)となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益306百万円、仕入債務の増加302百万円であり、主な減少要因は、売上債権の増加128百万円、法人税等の支払額247百万円であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、487百万円(前年同期は7百万円)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出220百万円と、投資有価証券の取得による支出305百万円であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は24百万円(前年同期は271百万円)となりました。主な要因は、配当金の支払額76百万円であります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。